

# 「コリントにある神の教会」 コリント人へ手紙第一 1章1節～3節

2024.09.08

今日からコリント人への手紙を学びましょう。今朝は、1章1節から3節から「コリントにある神の教会」についてです。

## 1 パウロとソステネから (1)。

この手紙は、パウロとソステネが、エペソから（Iコリント 16:8）コリントの教会に宛てたものです。

### (1) パウロ。

パウロは、かつては教会の迫害者でしたが、ダマスコという町に向かっている途中で、イエス・キリストに召され、使徒となりました。

3回の世界伝道に赴き、ガラテヤ、マケドニヤ、アカヤ、アジアに教会を形成し、最後はローマで殉教したと伝えられています。

「神のみこころによって、キリスト・イエスの使徒として召され」と強調するのは、パウロが12使徒の中にはいないので、パウロの使徒職を疑問視する人々がいたからです。では、パウロは使徒なのでしょうか。

パウロは、ダマスコの途上で「異邦人の使徒」として、キリスト・イエスから召されたのです（使徒 9:15）。

### (2) ソステネ。

コリントの会堂管理者でしたが、パウロのコリント伝道で回心しました。捕らえられて打ちたたかれたこともありました。この手紙が書かれたときは、パウロとともにエペソにいました。パウロがソステネの名を挙げているのは、彼がコリント出身だからです。

## 2 コリントにある神の教会 (2)。

### (1) コリント。

アカヤ（ギリシャ）の首都である商業都市で、当時の人口は60万と言われます。アフロディト神殿には千人の娼婦がおり、町の風紀は乱れていました。このようなコリントでパウロは伝道したのです。

## （2）コリントにある神の教会。

ここで「教会」と訳されていることばは、原語では「エクレシア」で、「呼び出された者」という意味です。日本語では、「教える会」ですが、「エクレシア」は、人々の共同体です。

ですから、「コリントにある神の教会」とは、コリントの町に出来た「神の共同体」です。

神の教会は、世界で一つですが、この風紀の乱れたコリントの町に、神様は神様の共同体をお造りになったのです。

コリント教会の伝道は次のようになされました。パウロはコリントでアクラトプリスキラ夫婦にであいました。この夫婦は後々、パウロの伝道に大きな力になりました。コリントでは、会堂管理者クリスポー家を始め、多くのコリント人が主を信じ、バプテスマを受けました。パウロは一年半、コリントに腰をすえて神のことばを教え続けました。こうしてコリント教会が始まったのです（使徒18章参照）。ソステネもまた会堂管理者でしたが、捕らえられて鞭で打たれたことがありました。

**適用：**「さがみのキリスト教会」は、この町に出来た神の共同体です。この町に、神様は、神様の共同体をお造りになりました。

## 3 聖徒として召され、聖なる者とされた者（3）。

教会は「神の共同体」ですが、それを構成するのは、どのような人々でしょうか。

### （1）聖徒として召され、聖なる者とされた方々。

神の教会の構成員は、「聖徒として召された者」で

す。それは「神様によって選ばれた者」であって、自分でなることは出来ません。「聖徒として」というのは、この世から聖別されてという意味です。

「聖なる者とされた」のは、イエス・キリストにあってです。イエス・キリストの贖いによって聖別されたのです。これが教会員です。

**適用：**私たちは、完全な者でも、聖なる者でもありませんが、神様によって、この世から聖別された者です。その自覚をしっかりと持ちましょう。

(2) 御名を至る所で呼び求めているすべての人々とともに。

ここでは、教会の世界的広がりを見ます。御名を呼び求めている人々は、あらゆる所にいます。各地域の教会は、世界の教会の一部です。

**適用：**さがみのキリスト教会は、日本長老教会の一部であり、日本長老教会は、世界の教会の一部なのです。主の日の礼拝は、全世界の信徒との礼拝であり、私たちの伝道活動は、主の教会の伝道活動なのです。

## 結論

イエス様は、「あなたがたは地の塩です」「世の光です」と言われました。神様は、コリントの町にこの「地の塩」「世の光」としての共同体を置かれたのです。それは、この共同体がコリントの町を救い、さらに近隣の町々に救いの手を広げていくためです。

神様は、この町に、キリストの共同体を置かれました。それは、この共同体がこの場所で「地の塩」「世の光」となるためです。クリスチャンは、一人では弱いものです。ですから、神様は共同体をお造りになり、それを「地の塩」「世の光」の拠点となさったのです。この共同体に連なることによって、私たちは成長し、強くなり、人々にあかし、主に導くことが出来るのです。

聖書が私たちに求めているのは、

- 1 神様がおられて、求める者には必ず応えてくださると信じること。
- 2 自分が神様に罪を犯していることを認めること。
- 3 イエス様が私たちの罪の身代わりとなって十字架にかかり死んでくださったこと、そして復活して、生きた救い主として私を迎えてくださることを信じること。
- 4 イエス様を信じるだけで、自分の罪が赦され、神様の子どもとして受け入れられることを信じること。

## 招きのことば

イエス様は、あなたの罪を赦すために、十字架におかかりになりました。あなたの罪を赦し、あなたが天国に行けるようになってほしいのです。

「私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめの供え物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。」

「見よ。わたしは戸のそとにたって叩く。だれでも、わたしの声を聞いて戸を開けるなら、わたしは、彼のところに入って、彼とともに食事をし、彼もわたしとともに食事をする」

「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます」